

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4078300094		
法人名	有限会社西日本総合		
事業所名	立花グループホームかつき苑		
所在地	福岡県八女市立花町山崎1918番地		
自己評価作成日	平成23年3月18日	ユニット名	東館

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

決められた1日の予定を消化していくのではなく、生活者のペースに合わせたゆっくりとした生活を送っている。調理が好きな方は調理を手伝ってもらったり、掃除が好きな方は一緒に掃除をしたり、裁縫が好きな方は雑巾を作ってもらったり、やりたいことをやれる環境を作っている。苑のバスにて季節ごとの風物や、催し物等を見にお出かけを行っている。苑に花壇や畑を作っており、生活者自身が耕し、育てている。収穫した野菜はみんなの食卓に上がっている。グループホームの生活者であっても、関連施設であるデイサービス等を利用したり、逆にグループホームにデイサービスの利用者に来てもらう等相互に協力し合う体制にある。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

毎日の朝礼時には、理念や倫理、ケアについて等、時に合った内容の話が20分程かけて行なわれており、職員の意識を高め、共通認識のもとケアが行なわれていくよう工夫している。また、週1回は地域の老人会長による「人権」を始め様々なテーマでの講話があり、朝礼が勉強会の一環となっている。今年度は「地域との繋がりを今以上に深めていこう」と運営推進会議で話し合いが行なわれた結果、日頃の感謝も込めて、母の日にホームで収穫した野菜を用いた「たご汁会」を開催し、地域の方と交流を深めている。ホームには畑や花壇の他、隣接した交流ホールでカラオケをしたり、大型バスを所有しているの、いつでも皆でバスハイイクができる等、アクティビティに富んでいる。

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 評価事業部		
所在地	福岡県北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成23年5月10日	評価結果確定日	平成23年7月4日

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:30)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果					
自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	敬天愛人・独立自尊・日感謝を法人全体の理念としている。また「地域に根付き、地域と共に暮らせるように支えています」という文言の入ったグループホーム理念を朝礼にて毎日全職員で唱和し、実践できるための確認を行っている。	グループホーム理念の下、地域の方との交流を深め、入居者が地域と共に暮らせるように支援している。今年度は地域の方と一緒にだご汁を作り「だご汁会」を開催している。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	地域の集会や行事に参加したり、行事や推進会議に区長・老人会長・民生委員等を招き交流を持っている。創立記念日には地域の方を招待して開催した。また地域の小学生の体験授業を受け入れたりしている。	地区の清掃や夏祭り等の行事には、入居者と一緒に参加している。また、地域の方がボランティアとしてホーム敷地の草取りをして頂くなど、身近な付き合いが出来ている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎年グループホーム職員が地域の集会等に参加し、インフルエンザ予防や感染症などの講演を実施している。また地域支援ホールを開放している。年に一度の家族会の際に近隣の方を招待している。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	老人会長・民生委員・行政・家族代表・生活者代表などが参加されている。外部評価などの事項は推進会議にて報告し、その際参加者より意見等をいただき記録を残し、実践するよう心がけている。	2ヵ月に1回定期的で開催している。左記のメンバーの他、近所の方も参加され客観的な意見を頂いている。「地域との繋がりを今以上にしていこう」という話し合いの中で「だご汁会」を開催した経緯がある。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	八女市役所立花支所の福祉担当者に推進会議へ参加していただいている。八女市役所、旧立花役場の福祉及び生保担当者には家族問題や金銭問題、生保など色々な相談等をしながら苑でのとりくみを相談している。	分からない事や相談事等があれば、電話をかけたたり、窓口に出向いて担当者と話し合うようにしている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員に対しては身体拘束に関する理解を深めるよう朝礼や研修等で説明を行っている。また身体拘束をしないでいようなケアを行うためのケア内容の検討などを朝礼やカンファレンスにて行っている。現在も以前車椅子ベルトをしていた方のベルトをしないで生活できるよう取り組んでいる。	身体拘束のないケアに取り組む方針であり、言葉による拘束にも留意するよう朝礼や研修時に意識付けを行なっている。職員だけでなく、入居者にも見守りを手伝ってもらい、ホームの皆で連携、協力し拘束をしない生活を維持している。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員に対しては虐待に関する理解を深めるよう説明を行っている。また虐待とならないケアを行うためのケア内容の検討などを朝礼やカンファレンスにて行っている。		

福岡県 立花グループホームかつき苑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	朝礼等にて周知しているが、今後研修等にて学ぶ機会をさらに作る予定である。	現在、制度を活用している方はいない。成年後見制度については内部研修を実施し、知識を高めているところである。法人内に研修委員会が発足しており、計画的かつ定期的に研修が実施されていくことを期待したい。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者・リーダーによる勉強会を実施し、家族への説明方法の確認を行い、十分な説明をしたうえで、疑問があれば、尋ねて頂けるように配慮し、契約を行っている。		
10	(7)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置したり、面会時にもご家族とお話ができるように必ず声掛けをおこなっている。推進会議にも利用者・家族代表の方にも参加していただいている。今後、ご家族が来苑された時にアンケートの記入の依頼を検討している。	年1回家族会を開催し、話し合う機会を設けている。面会時には必ず声をかけ意見や要望を聞くようにしている。意見箱を設置しているが意見書が入る事が無いため、今後アンケートを実施し意見の吸い上げを検討している。	
11	(8)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見は管理者が普段から聞けるように良好な関係を構築している。またその意見は管理者より代表者に提案するようにしている。	月1回全員参加の会議を開催し、職員の意見や提案を聞く機会を設けている。管理者は、常に話しやすい環境作りに努めており、職員からの要望や意見への迅速な対応に努めている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は職員の努力ややる気を引き出し、継続出来るようにキャリアに応じた研修に参加するようにしている。		
13	(9)	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の採用に関しては本人のやる気、能力、経歴を考慮して行っている。	代表者と管理者で採用面接を行なっている。面接では「明るく、優しく、高齢者おもしろいの人」を重視している。職員は21歳から70歳までと幅広く在職しており、資格制限はない。職員の中にマイクバスの運転免許取得者がおり、ホームのバスを使いバスハイクを実施している。	
14	(10)	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	朝礼や研修、カンファレンスにおいて、プライバシーなどの基本的な順守事項を定めて。今後も継続して行っている。	週に1回朝礼時に老人会長より人権についての話が行なわれており、定期的に学ぶ機会がある。	

福岡県 立花グループホームかつき苑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部での研修には積極的に参加を呼びかけている。またヘルパー2級等の資格取得を推奨している。		
16		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会や協議会等が主催する研修に積極的に参加している。また、他グループホームへ訪問し見学するなどの機会を設けることを検討している。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	管理者を中心によく生活者の話しをきくようにしている。また安心して生活していただけるよう希望などを聞き、最大限実現するよう努力をしている。		
18		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族にも不安や不明な点がないかよく話しを聞き、信頼関係が築けるよう心がけている。		
19		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	かつき苑のサービスはもちろん、外部の様々なサービスの紹介を含めて、ひとり一人に合った支援を提案している。		
20		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	できるだけ家事等に参加していただくよう各生活者の個性を理解しながら協力をお願いしている。生活者も家事を楽しまれている。		
21		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族へ3～4ヶ月に一度は近況報告書を出したり、面会時には普段の様子を伝えたりするよう心がけている。また、年1回家族会を実施したり、各行事に参加してもらっている。		
22	(11)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人の方の面会も来ていただいている。地域の祭りや催しなどにはバスで生活者を連れて参加するようにしている。	近所の馴染みの家や親戚の家を訪問したり、逆にホームに面会に来て頂いたり関係が途切れないよう支援している。また、行きたい場所があれば、家族の協力を得ながら外出支援している。	

福岡県 立花グループホームかつき苑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず に利用者同士が関わり合い、支え合えるような 支援に努めている	生活者同士の関係も踏まえ、生活の様々な場面で席の 配置や部屋割り等を生活者同士の関係などを鑑みて調 整している。また仲の悪い方同士の場合も職員が間に 入り仲裁したり、別の話題を話したりしてトラブルを未然 に防ぐ努力をしている。		
24		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関 係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族 の経過をフォローし、相談や支援に努めている	亡くなられた生活者の家族が野菜をもって きて下さる方もいる。良い関係を継続してい けるよう努力している。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握 に努めている。困難な場合は、本人本位に検討し ている	生活者がここでどのように暮らしたいか、日頃ケ アの中でマンツーマンになる機会に話を聴くよう にしている。希望があった場合は介護計画や日 常の生活に希望を反映できるようにしている。	普段と違い部屋に閉じこもっている時や、元 気がない時などは、寄り添ってゆっくり話がで きる環境作りを心掛けている。聴取した思い や意向は個人記録や申し送りノートに記載し 職員で共有している。	
26		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環 境、これまでのサービス利用の経過等の把握に 努めている	新たに入居された際は、苑での生活に役立 てられるように過去の生活歴や嗜好などの 聞き取りを行い、フェースシートに記入す るようにしている。		
27		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する 力等の現状の把握に努めている	職員が感じたり、聞いたりしたことは申し送 りやカンファレンスを通じ、生活者の状況を 把握し、記録を行っている。		
28	(13)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方 について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、 それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即 した介護計画を作成している	計画作成担当者を中心に月に1回カンファレンス を行い、介護計画に反映するようにしている。ま た最低半年に一回は主治医の意見書等を参考 にモニタリングを行い介護計画の作成を行って いる。	計画作成担当者は月1回のケア会議と毎日 の申し送り等で、情報の収集と職員からの意 見を聞き、介護計画に反映させている。介護 計画作成にあたっては今後、担当制を検討し ている。	担当制導入の検討もあり、今後は職 員全員で毎月新鮮な目で見て確認し ていき、新たな発見と課題、目標、ケ アのあり方等をより深く身近に感じ、 本人本位の介護計画が作成されてい くことを期待したい。
29		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を 個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら 実践や介護計画の見直しに活かしている	生活者の状況は記録や申し送りノートに記 入し、全員が同じケアができるように努力し ている。今後はケア内容を確認し、介護の 質の向上を目指している。		

福岡県 立花グループホームかつき苑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	かつき苑は共生ホーム・デイサービス・ケアプラン・グループホームと多くのサービスを提供している。生活者の状況や精神状態によってグループホームだけでなく他のサービスを利用したり、対応してもらうなど、個別のサービスに捉われないケアを実践している。一人一人の状態に応じ、サービスの変更や新しい方法なども必要に応じ行っている。		
31		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	家族や地域の方等から意見を聞いたり地域の行事に参加する等努力を行っている。また、近隣の方に差し入れをしたりして、関係を作っている。		
32	(14)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医が定期的に苑に往診に来ている。また専門的な医療が必要な場合は、主治医・看護師の意見を聞き必要な医療が受けられるように受診の支援を行っている。また主治医が勤務している日は毎日FAXで異常のある方は報告相談し指示をいただいている。	元々のかかりつけ医への受診を支援している。平日は毎日看護師が状態観察した内容や相談等をファックスで送り、医師から電話やファックスで指示をもらう等医療との連携が密にとれている。	
33		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師は全生活者の状態を把握し、必要に応じ、介護職員や主治医、家族等に連絡相談を行い適切な医療を受けられるよう援助している。		
34		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院後の生活者の生活の援助や家族への連絡等を行ったり、入院先の医療機関と情報交換を行い適切な治療を受けられ、またスムーズに退院ができるよう対処している。		
35	(15)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期をどこでどう迎えるか、家族へ希望を聞き確認する書類を作成している。それをもとに終末期ケアを実践している。	入居時に看取りについて説明及び意向の確認を行い、状態変化時に医師から状況説明をしてもらい、家族の意向を再確認している。ホームは看取りの対応をしており、終末期ケア及びエンゼルケアを実施し、最期をお見送りしている。	
36		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修等により緊急時の対応方法など急変時に対応できるように、マニュアルを作成し、職員全員に周知徹底するようにしている。		

福岡県 立花グループホームかつき苑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	昼・夜両方の時間帯を想定した避難訓練を実施している。また、消防等に意見を求めたり、地域の協力者を作り、緊急時に備えている。	消防署立ち会いのもと年2～3回昼夜を想定した避難訓練が行われている。地域住民の参加、協力も得られている。地震や水害に備え、水や食料といった備蓄品も保管されている。	
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	様々な機会での生活者の尊厳・プライバシーに配慮した対応をするようにしている。入浴時は同性による介助をしたり、排泄介助時は危険がない範囲でカーテンやドアを閉めている。	入居者の希望に合わせ、入浴や排泄介助は同性介助で対応するよう配慮している。出来る限り、個々人の生活習慣やペースにあわせた暮らしとなるよう心がけている。	
39		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	介護者の一方的なケアにならないよう自分で希望を言えるように話を聞くようにしている。それらをカンファレンス等で話し合う機会も作っている。		
40		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	あえて強制的な日課を作らず、その日の体調や希望によって生活者のペースで生活してもらうように心がけている。		
41		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	できるだけ生活者のしたいおしゃれができるよう配慮している。生活者にあった服装のコーディネートをするようにしている。		
42	(18)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	生活者の嗜好を把握し、食事形態を変えたり、嫌いなものときは別のものを作ったりしている。下ごしらえや味見、片付けなど生活者にも手伝ってもらいながら行っている。アンケートを実施し、一番要望の多かった刺身をメニューに取り入れた。食中毒対策として、直前にさばいてもらい、取りに行くようにしている。	食べたい物を食べられるように、意向を聴取し献立作成している。食材の皮むきや包丁を使って切ってもらい一緒に調理している。畑で育てた野菜を収穫し皆で食べる事が楽しみとなっている。	
43		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食量、水分は必ず記録し、水分は定時には必ず摂ってもらうようにし、脱水症を予防している。病気等で食事や水分量が入らなくなった方には、必要に応じ主治医と相談しながら、流動食等も対応している。		

福岡県 立花グループホームかつき苑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアチェック表を作成し、自分でできる方は自力で、介助が必要な方は職員が、一人一人にあった口腔ケアを実施している。その後、風邪防止のため、お茶でうがいをしてもらっている。		
45	(19)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個別にトイレ誘導を行い、時間をきめて誘導する方もあるが、本人の希望にあわせて誘導する方もある。できるだけトイレでの排泄ができるように介護計画を立てている。	水分量及び排泄は記録し誘導の指標としている。尿意等の訴えがない方は、表情や行動で気づき、さりげなくトイレ誘導するようにしている。	
46		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便はすべて量や回数をチェック表につけている。それにより排便がない、または下痢状態を把握し、看護師や主治医と相談し対策を行っている。		
47	(20)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	誰がいつ何時に入浴などは決めず、バイタルや看護師と相談しながら生活者のペースや必要性にあわせて入浴を行っている。体調が悪い時は、清拭を行っている。またその記録をつけている。	入浴拒否時は無理強いせず、時間を置いてタイミングを図りながら誘導・介助している。最低3日に1回は入浴できるよう支援している。	
48		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	起床時間や消灯時間は決めておらず、生活者自身が自分のペースで寝起きしてもらっている。体調や病状に合わせてながら、生活者自身の希望で午睡もしてもらっている。		
49		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋を管理し、看護師や主治医をとおり、服薬の管理を行っている。症状についても看護師主治医にそのつど相談し、薬の内容を決めてもらっている。		
50		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	野菜の皮むきや配下膳、掃除、洗濯たたみ、畑仕事など生活者の一人一人の希望や嗜好に合わせて、やりたいことができるようにしている。また、カンファレンスでも何か出来る事やしたいことがないかなど話し合う機会を作っている。		

福岡県 立花グループホームかつき苑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	<p>日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>散歩や畑仕事など希望により個別に対応している。また、季節にあわせバスにて祭りや自然を観察しに外出したりしている。</p>	<p>散歩や畑仕事、日用品やおやつ等の買い物は個別対応している。週1回はバスを使ってドライブしたり、外でおやつを食べて帰ってくる等の外出をしている。今後は個別対応の頻度を増やしていきたいと検討中である。</p>	
52		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>お金を管理できる方には管理してもらっている。買い物など希望があれば対応するようにしている。</p>		
53		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>電話や手紙の希望があればその都度支援している。</p>		
54	(22)	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>季節の野花を飾り愛でたり、季節にあった創作物を掲示したり、行事の写真を掲示するなど、全館で生活者が快適に生活できるように配慮した環境作りを心がけている。</p>	<p>共用空間と居室は入居者と一緒には掃除を行ない清潔に努めている。テーブルやカウンター等、目につく所には花壇で咲いた花や、職員が持ってきた花が飾られ季節を感じることができる。調査日は大きな牡丹が活けられていた。</p>	
55		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>いつも座る以外のイスとソファを配置し、思い思いの過ごし方ができるように配慮している。</p>		
56	(23)	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>生活者や家族から意見や希望をききながら家族の写真などを貼り、生活者が自宅にいるような雰囲気の中で生活できるようにしている。</p>	<p>生活者のADLや意向を聞きながら、ベッド又は畳に布団といったスタイルの居室になっている。居室には仏壇や電子ピアノ等が持ち込まれ独自の空間がつけられている。</p>	
57		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>適所に手すりを設置し、移動が困難な場所には職員が介助して移動してもらっている。</p>		